

都道府県別賞一等

将来の夢と生命保険

福井県 勝山市立勝山南部中学校 三学年

藤崎 若菜

生命保険と聞いて思い浮かべるのは、病気になった時にお金をもらえるのかなということくらいでした。私は保険というもの自体、何の知識も持っていないで、勝手に、私には無関係のものだと思っていました。

私の母の父親は肺ガンを患い、四十二歳で亡くなっています。私の母は、その時中学三年生。兄も妹もいて、高校や大学進学をひかえ、金銭的に大丈夫だったのか母に聞いてみたことがありました。私も今、高校進学をひかえて、公立と私立とでは学校にかかるお金が違うことや、進学するにはどれくらいのお金がかかるのかを調べるようになったからです。私は、高校、大学に進学して薬剤師になりたいという将来の夢がありますが、大学を卒業するまでには何百万円というお金がかかります。もし、県外へ出て一人暮らしをしたら、さらに多くのお金がかかるでしょう。だから、大学まで通った母の家の家計は金銭的に大丈夫だったのかとても気になったのです。母の父親は大きな手術を二回も行い、入院を繰り返して、一年の闘病生活を経て、天国へ旅立ちました。一家の大黒柱を失い、母の母親一人の収入で兄弟三人は行きたい学校に行けたのかと。しかし、母の話を聞いて、私の心配はすぐに吹き飛びました。元気なうちに生命保険に入っていたので、入院保険や生命保険のお金を受け取り、生活で困ることはなかったそうです。女性は男性より収入が少ないけれど、母の母親は生命保険のお金があったことで三人の子ども達を留学させたり、大学・短大へ通わせたりするなど、我が子のやりたいことを受け入れ、金銭的にもしっかり応援してくれたそうです。

母の話を聞いて、生命保険は生活の金銭的な不安を和らげてくれるだけでなく、残されてしまった人たちに自由な選択を与えてくれるのだと感じました。そして、それが生きる勇気となります。亡くなった母の父親が残してくれたお金。その恩恵に感謝し、母たちは一生懸命勉強したそうです。

もしもの出来事は、いつ誰に起きるか分かりません。だから、日頃から自分に何が起きてもいいように準備することがとても大切だと思いました。私の家族は、みんな生命保険に入っているそうです。何か起きた時のためにみんなが生命保険に入っていると知って、安心しました。私と妹の場合は、学資準備のための保険で大学の入学に備えて、まとまったお金を準備しているそうです。生命保険に入ったのは、私や妹が〇歳の時。そんな小さい時から将来を見据え

## 第61回中学生作文コンクール

て、両親がしっかりと保険に入ってくれたことがとても嬉しいです。今の私にできることは、その期待に応えられるよう、しっかりと自分の道を歩んでいくことです。